

□ 書評 □

宮川哲夫・黒川幸雄(責任編集)

理学療法 MOOK 4 呼吸理学療法 ビデオ 呼吸理学療法のテクニック

伊藤直榮

(茨城県立医療大学保健医療学部)

呼吸管理方法も年々進歩しているにもかかわらず、呼吸理学療法に大きな期待が寄せられているのは何故であろうか。期待の大きさに比して普及率の低い理由は何かと、いつも考えさせられています。その理由として一つ考えられることは“見掛け上、技術的には簡単に見えるが、いざやってみると、やっていることが良いのかどうか分からないからでありましょう”。現場で働いていて呼吸理学療法に魅力を感じ、実行してみたいとおもわれる看護婦や理学療法士は少なくないのです。実行するには、まずある一定以上の技術を習得することではないかと思っています。これは看護技術でもあり、理学療法技術でもあります。胸郭の動きに同調させ、深呼吸の範囲内で、呼吸に合わせて胸郭を動かし、“肺胞の換気を促す”ことが呼吸理学療法技術であり、呼吸理学療法の究極の目的でもあります。換気促進技術を臨床で使えるようになるまで習得するには、指導方法の進歩した現在も、毎週2日間練習しても3週間は必要のようでありす。

このような時期に、宮川哲夫氏監修・指導によるこのビデオを見ての第一印象は、非常によく出来ているということでありました。この種のこれまでのビデオは、体位排痰に重点を置き過ぎていたために、もっとも大切な換気について触れていなかった。無論、体位排痰法を軽視するものではないのですが、排痰は換気の改善なくしては不可能といってよいからであります。その点を宮川氏は十分心得ていて、30分の中でその効果をリアルに見せております。ここに出てくる主な手技は約30年近く前、Dr. W. Kolaczowski(カナダ在住)の発案によるものでありますが、当時は全く認められなかったのです。今日では、世界を飛び回って指導に多忙を極めており、我が国でも昨年6月、氏の実技講演が開催されました。この機会に、このビデオが制作され、普及の運びとなったのは、日本でも呼吸障害の改善と予防に大いに貢献することと思います。

ところで、同時に出版の運びとなりました理学療法MOOK 4呼吸理学療法は実践の書として今後広く活用されることと思います。しかし、これらはの知識を本当に活かすには、先のビデオに見られる技術の裏付けが必要不可欠であることを重ねて述べたいと思います。最後になりましたが、聴診について別項目で強調して欲しかったことを述べて書評とします。

●ビデオ 28分 VHS 定価(本体20,000円+税)

書籍 B5 頁330 定価(本体4,500円+税) 〒380
1999 三輪書店・刊